

妻籠宿

町並み保存運動

明治になり鉄道や道路が木曾川沿いに造られ、宿場としての機能を失った妻籠宿は衰退の一途をたどり、やがて昭和四十年代になり集落保存と景観が修復され、妻籠宿の町並みが見直されました。妻籠の人たちは町並みを守るために家や土地を「売らない・貸さない・こわさない」を中心とする住民意章をつくり、ここで生活しながら、江戸時代の町並みという貴重な財産を後世に伝えていきます。

寺下の町並み

日本で最初に宿場保存事業が行われた寺下地区は、妻籠宿保存の原点とも言うべき町並みです。

車両通行止め
(歩行者は通行可)

10:00~16:00
車両進入禁止

凡例

宿	旅館・民宿	品	お土産・木工製品
味	味わい所	他	その他
	トイレ		バス停
	中山道		

延命地藏

文化10年(1813年)、光徳寺住職・中外和尚が、地藏尊像の浮かび上がりしている岩を蘭川(あららぎがわ)から運んできて安置したものです。

石仏「寒山拾得」像

国内唯一とされる、石仏「寒山拾得」像。石に掘られた双体像は他に類類がない。

光徳寺 こうとくじ

石垣を築き、白壁をめぐらせた気品ある寺で、明応9年(1500年)に開山されたと言われています。



石仏寒山拾得像

上嵯峨屋

昭和44年の解体復元によって18世紀中期の木賃宿(きちんやど)であることがわかりました。

和智笠神社



妻籠町並み交流センター

(公財)妻籠を愛する会
コインロッカー

長野県天然記念物 ぎんもくせい

神官・矢崎氏の庭木として、代々愛育されてきた巨木です。(県宝)

妻籠宿ふれあい館 (無料休憩所)

つまごしゆくほんしん 妻籠宿本陣 (南木曾町博物館)

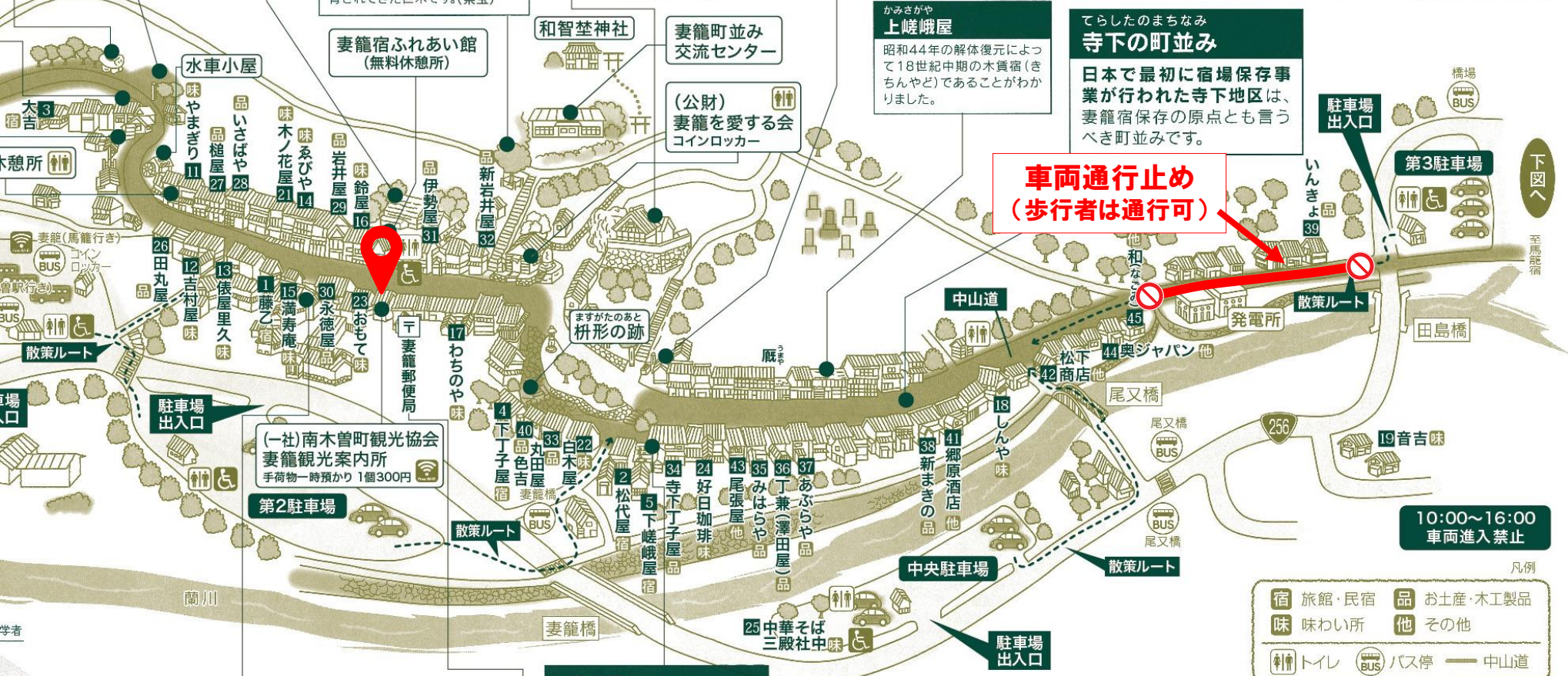
妻籠宿本陣には島崎氏が任命され、明治に至るまで本陣、庄屋を兼ね務めました。島崎藤村の母の生家で、次兄広助が養子にきています。平成7年4月に復原されました。



赤

関所が置かれ

をした岩で中山道でしたが、明治地震で、形が変わ



脇本陣奥谷

代々脇本陣・問屋を務めた家で、現在の建物は明治10年に建て替えたものです。また、島崎藤村の初恋の人と言われる

当時の建築の粋を感じませ。脇本陣奥谷内

下嵯峨屋 しもさかや

当初、長屋であったものです。妻籠宿における庶民の住居を代表する形式をとどめています。

石柱道標

妻籠は、中山道と飯田街道の分岐点として出た宿で、その礎は明治14

者

を刊
「春」
なつ
到達
した歴

下図へ
至馬籠宿

上図へ